

企業短期経済観測調査（道北\*地域分）  
（調査対象企業：道北\*47社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
回答社数構成比 %ポイント  
( ) 内は前回調査時予測

(判断D. I.)

	2016/9月	12月	2017/3月	6月	9月	12月	2018/3月 までの予測
業況判断 < 良い - 悪い >	17	14	12	19	20	( 8 ) 19	8
うち製造業	40	40	40	50	60	( 30 ) 40	20
非製造業	11	8	5	11	8	( 3 ) 14	5
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲18	▲20	▲9	▲7	▲2	( ▲6 ) 0	▲9
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	▲3	3	3	▲6	▲3	▲6	—
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲5	0	▲6	▲9	▲9	( ▲15 ) ▲9	▲11
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲39	▲37	▲34	▲45	▲40	( ▲38 ) ▲40	▲42
資金繰り < 楽である - 苦しい >	11	15	13	6	10	15	—
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	34	34	33	25	23	33	—
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲18	▲18	▲22	▲7	▲2	( 0 ) 4	10
販売価格 < 上昇 - 下落 >	4	▲4	2	0	2	( 2 ) ▲7	0
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	17	27	31	28	17	( 22 ) 25	34

(注) 「製商品在庫水準判断」、「資金繰り判断」および「金融機関の貸出態度判断」の「2018/3月までの予測」は調査対象外。

(事業計画)

全産業、前年度比%、  
< >内は前回調査比修正率%

	2015年度実績	2016年度実績	2017年度計画			
			上期		下期	
売上高	+1.0	+0.9	-0.1 < +0.5 >	-1.9 < +0.7 >	+1.5 < +0.4 >	
経常利益	+70.2	+44.1	-11.1 < +1.8 >	+23.8 < +22.8 >	-36.6 < -18.3 >	
当期純利益	2.2倍	+49.0	+11.8 < +2.3 >	+71.9 < +28.8 >	-31.6 < -25.4 >	
設備投資額	-69.0	+0.6	+83.4 < +9.5 >	+70.1 < +10.0 >	2.0倍 < +8.9 >	

## 道北地域の企業短期経済観測調査結果（2017年12月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 47 社（製造業 10 社、非製造業 37 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 47 社）
- 回答期間：2017 年 11 月 14 日～12 月 14 日

### 1. 業況判断 DI

- 12月の業況判断 DI（全産業ベース）は+19。前回9月調査に比べて小幅悪化した（前回+20、前回比▲1ポイント）。
  - 製造業の業況判断 DI は+40。食料品と電気機械の悪化を主因に前回調査比悪化した（前回+60、前回比▲20ポイント）。
  - 非製造業の業況判断 DI は+14。情報通信や観光関連の好転を主因に前回調査比改善した（前回+8、前回比+6ポイント）。
- 先行きの業況判断 DI は、悪化を予測（2018年3月までの予測：+19⇒+8）。
  - 製造業は、建設資材関連で悪化を見込んでいる（+40⇒+20）。
  - 非製造業は、飲食サービスで改善を見込む先がみられるものの、建設関連や卸・小売で悪化を見込む先がみられることから、全体では悪化する見込み（+14⇒+5）。

### 2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI〈需要超過－供給超過〉」（▲2⇒±0）は、建設関連の需要増加を背景に供給超が解消。先行きは建設関連や卸・小売などを主因に再び供給超となる予測（⇒▲9）。「製商品在庫水準判断 DI〈過大－不足〉」（▲3⇒▲6）は、建設関連で不足超幅が若干拡大。「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰－不足〉」（▲9⇒▲9）は、建設関連で不足とする先が若干増えたものの、全体では横ばい。先行きは建設関連やサービスなどを中心に不足超幅が若干拡大する見通し（⇒▲11）。
- 「雇用人員判断 DI〈過剰－不足〉」（▲40⇒▲40）は、引続き幅広い業種で不足を指摘する先がみられた。先行きについても、こうした状況に変化は見込まれていない（⇒▲42）。

- 企業を取り巻く金融環境についてみると、引続き緩和された状態が続いている。借入金利水準は「上昇している」と答えた先が若干見られたことから、2010年6月調査以来30期ぶりに上昇超に転じた（「借入金利水準判断 DI<上昇-低下>」：▲2⇒+4）ものの、金融機関の貸出態度の緩い超幅が再び拡大した（「金融機関の貸出態度判断 DI<緩い-厳しい>」：+23⇒+33）ほか、資金繰りの「楽である」超幅も拡大した（「資金繰り判断 DI<楽である-苦しい>」：+10⇒+15）。
- 「仕入価格判断 DI<上昇-下落>」（+17⇒+25）は、建設関連で資材価格やエネルギー価格の上昇を指摘する先がみられたことから、上昇超幅が再び拡大。先行きも同様に資材価格やエネルギー価格の上昇を見込む先が多いことから、上昇超幅がさらに拡大する予測（⇒+34）。「販売価格判断 DI<上昇-下落>」（+2⇒▲7）は、建設関連やサービスで上昇-服ないし下落と答えた先がみられたことから、4期ぶりに下落超に転化。先行きは、これらの業種で反転を見込んでいることから、下落超が解消する予測（⇒±0）。

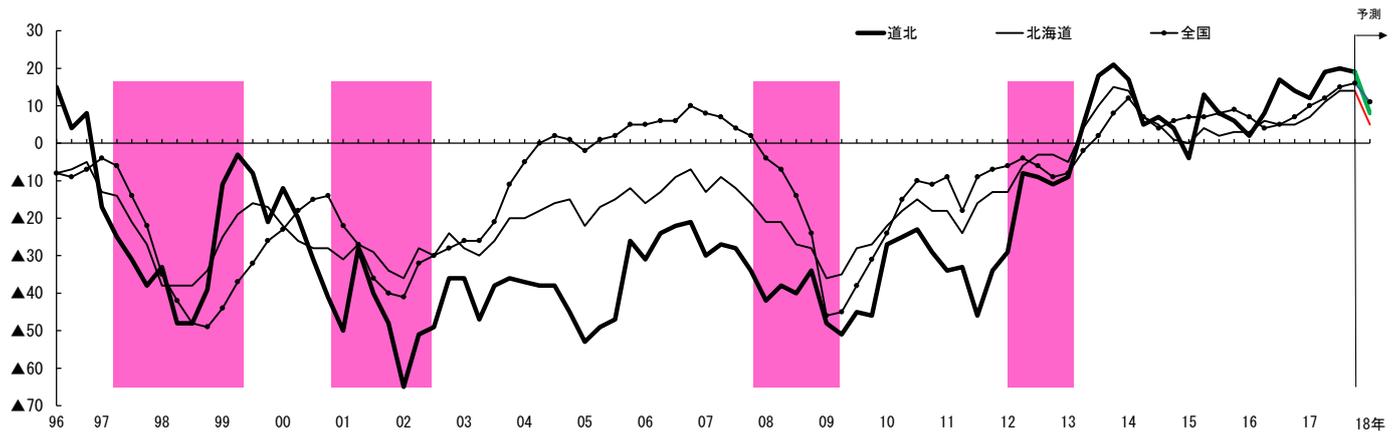
### 3. 事業計画

- 2017年度の売上高は前年度比▲0.1%とほぼ横ばいの計画。経常利益は同▲11.1%、当期純利益は同+11.8%の計画。設備投資額は同+83.4%と大幅に増加する計画となっている。いずれも前回調査比上方修正されている。

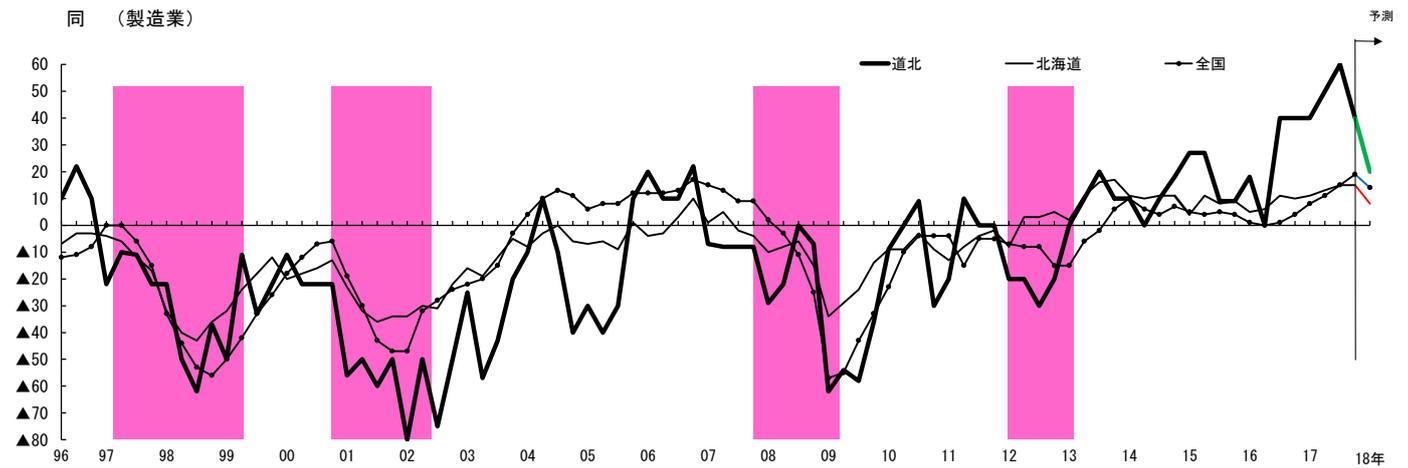
以 上

# 2017年12月短観・調査結果

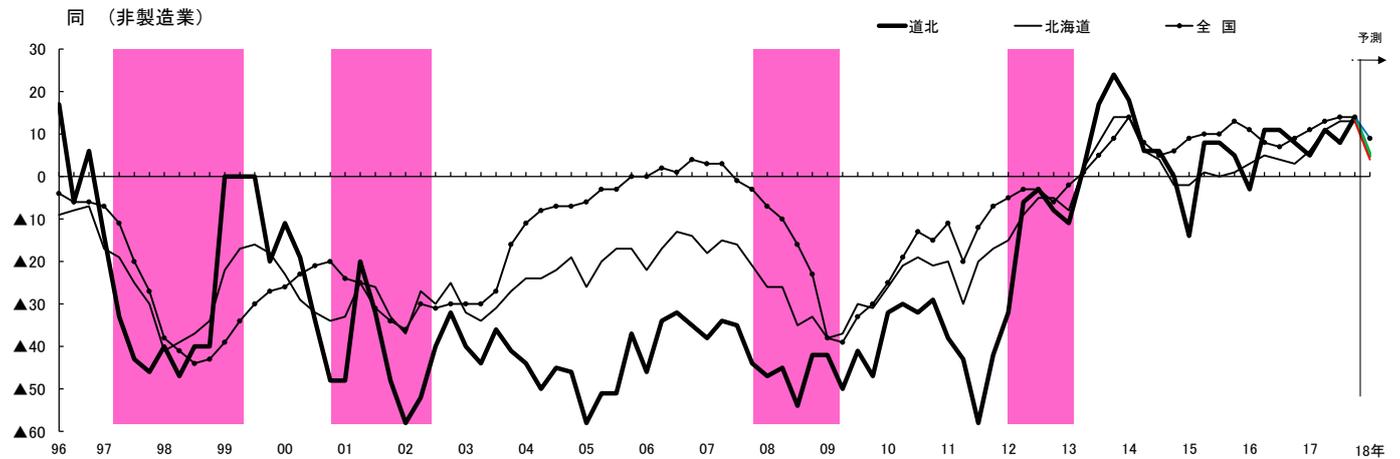
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)  
 道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
 2014/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014/12月以降は見直し後の新ベース。  
 シャドローは景気後退期（内閣府調べ）